

問題20 法定地上権に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 更地に一番抵当権が設定された後、建物が建築され、その後当該土地に設定された二番抵当権が実行された場合、法定地上権が成立するというのが判例の立場である。
- 2 借地人が借地上の建物に一番抵当権を設定した後に土地の所有権を取得し、建物に二番抵当権を設定し、一番抵当権が実行された場合、一番抵当権が実行されたときは法定地上権が成立しないというのが判例の立場である。
- 3 再築された建物が旧建物と同一性を維持している場合、新建物を基準とする法定地上権が成立するというのが判例の立場である。
- 4 土地に抵当権が設定された当時、土地と建物の所有者が同一であったのなら、抵当権設定当時、建物登記が前主主義のままであったとしても、法定地上権が成立するというのが判例の立場である。
- 5 土地がA Bの共有で、建物がAの所有の場合、Aの土地持分権に抵当権が設定され、抵当権が実行されてCが買い受けた場合、共有土地上に法定地上権が成立するというのが判例の立場である。

問題21 契約に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 契約の当事者は、公序良俗に反さないのなら、法令の規定にかかわらずに、契約の内容を自由に決定することができる。
- 2 契約は、契約の内容を示してその締結を申し入れる意思表示に対して相手方が承諾をしたときに成立する。
- 3 承諾の期間を定めてした申込みは、撤回することができる。
- 4 遅延した承諾は、当然に、新たな申込みとみなされる。
- 5 承諾の期間を定めなかった申込みは、撤回することができる。

問題22 契約に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 当事者双方の責めに帰することができない事由によって債務を履行することができなくなったときは、債権者は、反対給付の履行を拒むことができない。
- 2 債権者の責めに帰すべき事由によって債務を履行することができなくなったときは、債権者は、反対給付の履行を拒むことができる。
- 3 契約により当事者の一方が第三者に対してある給付をすることを約したときは、その第三者は、債務者に対して直接にその給付を請求する権利を有する。
- 4 契約により当事者の一方が第三者に対してある給付をすることを約した場合において、第三者の権利は、右契約を締結した時点で発生する。
- 5 第三者の契約における第三者の権利が発生した後に、債務者がその第三者に対する債務を履行しない場合には、第三者の契約の相手方は、その第三者の承諾を得なくても契約を解除することができる。